

利 用 上 の 注 意

I 経済センサス-活動調査の概要

1 調査の目的

経済センサス-活動調査は、我が国の全産業分野における事業所及び企業の経済活動の実態を全国的及び地域別に明らかにするとともに、事業所及び企業を調査対象とする各種統計調査の精度向上に資する母集団資料を得ることを目的とする。

2 調査の根拠

統計法（平成19年法律第53号）に基づく基幹統計調査であり、経済センサス活動調査規則（平成23年総務省・経済産業省令第1号）によって実施している。

3 調査の期日

平成28年6月1日

4 調査の対象

日本標準産業分類に掲げる産業に属する事業所のうち、以下に掲げる事業所並びに国及び地方公共団体の事業所を除く事業所・企業について行った。

- (1) 大分類A－農業・林業に属する個人経営の事業所
- (2) 大分類B－漁業に属する個人経営の事業所
- (3) 大分類N－生活関連サービス業、娯楽業のうち、小分類792－家事サービス業に属する事業所
- (4) 大分類R－サービス業（他に分類されないもの）のうち、中分類96－外国公務に属する事業所

II 本報告書について

- 1 本報告書は、製造業について「工業統計調査（経済産業省）」（以下「工業統計」という。）と時系列比較を行うために、「平成28年経済センサス-活動調査（総務省・経済産業省）」（以下「28年活動調査」という。）の調査結果のうち、以下の全てに該当する製造事業所（以下「事業所」という。）について、静岡県分を独自に集計したものである。

- (1) 従業者4人以上の事業所であること
- (2) 管理、補助的経済活動のみを行う事業所ではないこと
- (3) 製造品目別に出荷額が得られた事業所であること

- 2 本報告書は、「調査結果の概要」及び「統計表」で構成した。

「調査結果の概要」は、「概況」、「事業所数」など16項目についてまとめた。

「統計表」は、「I産業編」、「II市町編」、「III品目編」、「IV付表」の4項目に編集した。

「産業編」は、従業者4人以上の事業所について、日本標準産業分類に基づき、その主

たる製造活動によって産業格付けし、産業別に集計したものである。「市町編」は、従業者4人以上の事業所について、主要な調査項目を市町別に集計したものである。

- 3 本報告書において、「平成27年」の数値は28年活動調査、「平成23年」の数値は「平成24年経済センサス-活動調査」（以下「24年活動調査」という。）、その他の年次の数値は工業統計である。

調査結果のうち、売上（収入）金額、費用等の経理事項は、表示年次における1年間の数値である。また、事業所数、従業者数等の経理事項以外の事項については、28年活動調査は平成28年6月1日現在、24年活動調査は平成24年2月1日現在、工業統計は表示年次の12月31日現在の数値である。

また、28年活動調査においては、調査事項を簡素化した個人経営調査票を設けたため、事業所数、従業者数については個人経営調査票による調査分を含んだ集計結果であるのに対し、経理事項についてはこれらの調査分を含まない集計結果である。ただし、本報告書の「調査結果の概要」及び「統計表」において、時系列比較及び前年比較に用いた「製造品出荷額等」のみ、個人経営調査票による調査分を含めた数値とした。

- 4 製造品出荷額等の経理事項については、原則消費税込みで把握しているが、一部の消費税抜きの回答については、「統計調査における売上高等の集計に係る消費税の取扱いに関するガイドライン（平成27年5月19日各府省統計主管課長等会議申合せ）」に基づき、消費税込みに補正した上で結果表として集計した。

- 5 従業者数の項目については、工業統計の集計における定義に合わせた形で再集計している（詳細は集計項目の説明を参照）。

- 6 産業分類のうち産業分類中分類の名称については、次表のとおり日本標準産業分類の中分類名を略したものをを用いた。

なお、重化学工業と軽工業の区分については、次表で中分類番号を【 】で囲んだものを重化学工業とし、それ以外を軽工業とした。

また、産業3類型の区分については、次表で略称末尾に(基)と記したものを基礎素材型産業とし、同様に(加)と記したものを加工組立型産業、(生)と記したものを生活関連型産業とした。

なお、産業分類細分類の名称については、原則として、日本標準産業分類の細分類名末尾の「製造業」を略したものをを用いた。

産業分類中分類別略称表

番号	略 称	産業分類中分類	各産業における本県の主要製造品
09	食 料 品 (生)	食料品製造業	冷凍水産食品、他に分類されない調味料、惣菜
10	飲料・たばこ・飼料 (生)	飲料・たばこ・飼料製造業	たばこ、茶系飲料、緑茶(仕上茶)
11	織 維 工 業 (生)	繊維工業	ポリエステル長繊維糸、プレスフェルト製品
12	木 材 ・ 木 製 品 (基)	木材・木製品製造業(家具を除く)	住宅建築用木製組立材料、造作材(建具を除く)
13	家 具 ・ 装 備 品 (生)	家具・装備品製造業	建具(金属製を除く)、事務所用・店舗用装備品
14	パ ル プ ・ 紙 (基)	パルプ・紙・紙加工品製造業	その他の紙衛生用品、衛生用紙、ダンボール箱
15	印 刷 (生)	印刷・同関連業	オフセット印刷物(紙に対するもの)
【16】	化 学 工 業 (基)	化学工業	医薬品製剤(医薬部外品製剤を含む)、触媒
【17】	石 油 ・ 石 炭 (基)	石油製品・石炭製品製造業	アスファルト舗装混合材、タール舗装混合材
18	プ ラ ス チ ッ ク 製 品 (基)	プラスチック製品製造業(別掲を除く)	自動車用プラスチック製品、プラスチックフィルム・シート・床材・合成皮革加工品
19	ゴ ム 製 品 (基)	ゴム製品製造業	その他の工業用ゴム製品、乗用車用タイヤ
20	な め し 革 ・ 同 製 品 (生)	なめし革・同製品・毛皮製造業	婦人用・子供用革靴、工業用革製品
21	窯 業 ・ 土 石 (基)	窯業・土石製品製造業	その他の板ガラス(一貫製造によるもの)、生コンクリート
【22】	鉄 鋼 業 (基)	鉄鋼業	鉄鋼切断品(溶断を含む)、鉄スクラップ加工処理品
【23】	非 鉄 金 属 (基)	非鉄金属製造業	銅被覆線、アルミニウム・同合金ダイカスト、アルミニウム再生地金、アルミニウム合金
【24】	金 属 製 品 (基)	金属製品製造業	打抜・プレス機械部分品(機械仕上をしないもの)、鉄骨
【25】	は ん 用 機 械 (加)	はん用機械器具製造業	エアコンデショナ(ウインド形、セパレート形を除く)
【26】	生 産 用 機 械 (加)	生産用機械器具製造業	プレス用金型、数値制御ロボット
【27】	業 務 用 機 械 (加)	業務用機械器具製造業	医療用機械器具・同装置、他に分類されない計量器・測定器・分析機器・試験機
【28】	電 子 部 品 ・ デ バ イ ス (加)	電子部品・デバイス・電子回路製造業	その他の半導体素子
【29】	電 気 機 械 (加)	電気機械器具製造業	内燃機関電装品の部分品・取付具・附属品、白熱電灯器具
【30】	情 報 通 信 機 械 (加)	情報通信機械器具製造業	携帯電話機・PHS電話機、その他の電気音響機械器具
【31】	輸 送 機 械 (加)	輸送用機械器具製造業	駆動・伝導・操縦装置部品、軽・小型自動車(2000cc以下)
32	そ の 他 の 製 造 業 (生)	その他の製造業	その他の運動用具、ピアノ、電子楽器、その他の洋楽器、和楽器

7 地域ブロックについては、静岡県が平成23年2月に策定した、静岡県総合計画「富国徳の理想郷“ふじのくに”のグランドデザイン」の以下の5つの地域圏とした。

地域名	市町数	市町名(平成28年6月1日現在)
伊豆半島	10	熱海市・伊東市・下田市・伊豆市・伊豆の国市・東伊豆町・河津町・南伊豆町・松崎町・西伊豆町
東 部	10	沼津市・三島市・富士市・富士宮市・御殿場市・裾野市・函南町・清水町・長泉町・小山町
中 部	1	静岡市
志太榛原 ・中東遠	12	焼津市・藤枝市・島田市・牧之原市・御前崎市・菊川市・掛川市・袋井市・磐田市・吉田町・川根本町・森町
西 部	2	浜松市・湖西市

III 統計表等の見方

1 集計項目の説明

(1) 事業所数

調査日現在(28年活動調査では平成28年6月1日、24年活動調査では平成24年2月1日、工業統計では調査年の12月31日。以下同じ。)の製造業に属する事業所の数である。事業所とは、一般的に工場、製作所、製造所あるいは加工所などと呼ばれているような、一区画を占めて主として製造又は加工を行っているものをいう。

(2) 従業者数

調査日現在に当該事業所で働いている人数であり、個人事業主及び無給家族従業者、常用労働者の合計である。したがって、他の会社などの別経営の事業所から出向又は派遣されている人(受入者)も含まれる。一方、他の会社などの別経営の事業所へ出向又は派遣している人(送出者)、臨時雇用者(1か月以内の期間を定めて雇用されている者及び日々雇用されている者)は従業者に含めない。

- ①個人事業主及び無給家族従業者とは、業務に従事している個人事業主とその家族で無報酬で常時就業している者をいう。したがって、実務にたずさわっていない事業主とその家族で手伝い程度のものは含まない。
- ②常用労働者とは、次のいずれかに該当する者をいい、有給役員、正社員・正職員、パート・アルバイト等及び出向・派遣受入者の合計である。
- ア 期間を決めず、又は1か月を超える期間を決めて雇われている者
- イ 他の企業からの出向従業者、人材派遣会社からの派遣従業者などで、上記アに準じる者
- ウ 重役、理事などの役員のうち、常時勤務して毎月給与の支払を受けている者
- エ 事業主の家族で、その事業所に働いている者のうち、常時勤務して毎月給与の支払を受けている者

(3) 現金給与総額

調査期間（28年活動調査では平成27年1年間、24年活動調査では平成23年1年間、工業統計では調査年1年間。以下同じ。）に常用労働者に対し支給された次の給与の額の合計である。

- ①基本給、諸手当
- ②特別に支払われた給与（期末賞与等）
- ③その他の給与

（常用労働者に対する退職金又は解雇予告手当、出向・派遣受入者に係る支払額、臨時雇用者に対する給与、出向させている者に対する負担額など）

(4) 原材料使用額等

調査期間における原材料使用額、燃料使用額、電力使用額、委託生産費、製造等に関連する外注費及び転売した商品の仕入額であり、消費税額を含んだ額である。

- ①原材料使用額とは、主要原材料、補助材料、購入部分品、容器、包装材料、工場維持用の材料及び消耗品などの使用額をいう。下請工場などに原材料を支給して製造加工を行わせた場合には、支給した原材料の額も含まれる。
- ②燃料使用額とは、生産段階で使用した燃料費、荷物運搬用及び暖房用の燃料費、自家発電用の燃料費などをいう。
- ②電力使用額とは、購入した電力の使用額をいい、自家発電は含まない。
- ③委託生産費とは、原材料又は中間製品を他企業の事業所に支給して製造又は加工を委託した場合、これに支払った加工賃及び支払うべき加工賃をいう。
- ④製造等に関連する外注費とは、生産設備の保守・点検・修理、機械・装置の操作、製品に組み込まれるソフトウェアの開発など、事業所収入に直接関連する外注費用をいう。
- ⑤転売した商品の仕入額とは、平成27年1年間において、実際に売り上げた転売品（他から仕入れて又は受け入れてそのまま販売したもの）に対応する仕入額をいう。

(5) 製造品出荷額等

調査期間における製造品出荷額、加工賃収入額及びその他収入額の合計であり、消費

税等内国消費税額を含んだ額である。なお、内国消費税額とは、消費税、酒税、たばこ税、地方揮発油税をいう。ただし、消費税は調査項目に含まれないため、推計により算出している。

①製造品の出荷とは、その事業所の所有に属する原材料によって製造されたもの(原材料を他に支給して製造させたものを含む。)を、調査期間にその事業所から出荷した場合をいう。また、次のものも製造品出荷に含まれる。

ア 同一企業に属する他の事業所へ引き渡したもの

イ 自家使用されたもの(その事業所において最終製品として使用されたもの)

ウ 委託販売に出したもの(販売済みでないものを含み、調査期間に返品されたものを除く)

②加工賃収入額とは、調査期間に他企業の所有に属する主要原材料によって製造し、あるいは他企業の所有に属する製品又は半製品に加工、処理を加えた場合、これに対して受け取った又は受け取るべき加工賃をいう。

③その他収入額とは、上記①及び②以外(例えば、転売収入(仕入れて又は受け入れてそのまま販売したもの)、修理料収入額、冷蔵保管料及び自家発電の余剰電力の販売収入額等)の収入額をいう。

(6) 製造品、半製品及び仕掛品並びに原材料及び燃料の在庫額

事業所の所有に属するものを調査期間における帳簿価額によって記入したものであり、原材料を他企業の事業所に支給して製造される委託生産品も含まれる。

(7) 有形固定資産

有形固定資産の額は、調査期間における金額であり、帳簿価額によっている。

①有形固定資産の取得額等には、次の区分がある。

ア 土地

イ 建物及び構築物(土木設備、建物附属設備を含む。)

ウ 機械及び装置(附属設備を含む。)

エ 船舶、車両、運搬具、耐用年数1年以上の工具、器具及び備品等

②建設仮勘定の増加額とは、この勘定の借方に加えられた額をいい、減少額とは、この勘定から他の勘定に振り替えられた額をいう。

③有形固定資産の除却額とは、有形固定資産の売却、撤去、滅失及び同一企業に属する他の事業所への引き渡しなどの額をいう。

(8) 計算項目算式一覧

①粗付加価値額

粗付加価値額＝製造品出荷額等－原材料使用額等－(消費税を除く内国消費税額
＋推計消費税額)

②生産額(従業者30人以上の事業所)

生産額＝製造品出荷額＋加工賃収入＋(製造品年末在庫額－製造品年初在庫額)
＋(半製品及び仕掛品年末価額－半製品及び仕掛品年初価額)

③付加価値額(従業者30人以上の事業所)

付加価値額＝製造品出荷額等＋(製造品年末在庫額－製造品年初在庫額)＋(半製品及び仕掛品年末価額－半製品及び仕掛品年初価額)－原材料使用額等－(消費税を除く内国消費税額＋推計消費税額)－減価償却額

④現金給与率(従業者30人以上の事業所)

現金給与率＝
$$\frac{\text{現金給与総額}}{\text{生産額－(消費税を除く内国消費税額＋推計消費税額)}} \times 100$$

⑤原材料率(従業者30人以上の事業所)

原材料率＝
$$\frac{\text{原材料使用額等－転売した商品の仕入額}}{\text{生産額－(消費税を除く内国消費税額＋推計消費税額)}} \times 100$$

⑥付加価値率(従業者30人以上の事業所)

付加価値率＝
$$\frac{\text{付加価値額}}{\text{生産額－(消費税を除く内国消費税額＋推計消費税額)}} \times 100$$

⑦有形固定資産投資総額(従業者30人以上の事業所)

有形固定資産投資総額＝有形固定資産の取得額＋(建設仮勘定の年間増加額－建設仮勘定の年間減少額)

⑧有形固定資産投資純増額(従業者30人以上の事業所)

有形固定資産投資純増額＝有形固定資産投資総額－除却額

2 統計表等に用いた記号の用法及び注記

(1) 記号の用法

「－」：該当の数値がないもの

「0」：端数四捨五入による単位未満のもの

「▲、－」：負数(マイナス)であることを示す。統計数値の前に付す。

「…」：該当数値が不詳のもの

「X」：1又は2の事業所に関する数値であるため、これをそのまま掲げると、個々の申告者の秘密が漏れるおそれがあり秘匿した箇所

なお、3以上の事業所に関する数値でも、1又は2の事業所の数値が前後の関係から判明する箇所は「X」で表示した。

(2) 秘匿の数値の扱い

統計表中の「X」の数値は、総数に含めている。

(3) 金額の積み上げと合計

金額を百万円単位又は億円単位で表示してある箇所は、百万円未満又は億円未満を四捨五入しているため、関係各欄の積み上げによる合計と合計欄の数値とが一致しない場合がある。

(4) 構成比の積み上げ

構成比は、それぞれ小数点2桁目を四捨五入しているため、積み上げの合計が100%

にならない場合がある。

(5) 従業者規模区分

「調査結果の概要」中、従業者規模区分は次のとおりとした。

- ①「小規模」：従業者数 4～29人
- ②「中規模」：従業者数 30～299人
- ③「大規模」：従業者数 300人以上

3 その他

- (1) この報告書の数値は、総務省・経済産業省が公表した「平成28年経済センサス-活動調査 製造業」のうち、静岡県分の調査結果を取りまとめたものである。なお、数値の一部については、同調査結果を本県が独自に集計したものを含んでいるため、総務省・経済産業省が公表した数値と相違する場合がある。
- (2) 複数の分類項目（多品種の生産）に該当する製造を行っている事業所については、出荷額の最も多い分類項目に、当該事業所のすべての出荷額が算入されている。
- (3) 統計表のうち「Ⅲ 品目編」の産出事業所数は、ひとつの事業所が複数の品目を生産した場合、品目ごとに産出事業所数として重複して計上される。したがって、「産業編」の事業所数の合計と「品目編」の産出事業所数の合計とは一致しない。
- (4) 28年活動調査の調査時点は平成28年6月1日現在、24年活動調査は平成24年2月1日現在、工業統計は12月31日現在であることなど、厳密には活動調査と工業統計の数値とは連結しない部分がある。数値の解釈に当たっては留意する必要がある。

この報告書についての問い合わせ先は次のとおりです。

なお、本内容は下記ホームページにも掲載しています。

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

静岡県経営管理部情報統計局統計調査課 商工班

電話 054-221-2248(直通) FAX 054-221-3609

統計センターしずおか URL <http://toukei.pref.shizuoka.jp/>

